

# 家庭教育力の強化を図ろう

～親子で考えよう、健康のこと～

豊川市立豊川小学校 P T A

## 1 学区及び学校の概要

本校は、日本三大稲荷として有名な豊川稲荷内の育英館を発祥とし、今年度創立150年を迎える歴史のある学校である。JR豊川駅と名鉄豊川稲荷駅が隣接しており、駅前の商店街は豊川稲荷の参拝客を中心に賑わいを見せている。

## 2 研究のねらい

本校では、児童が毎日にこにこしながら元気に登校できるように規則正しい生活習慣を身につけさせるため、「にこげんき週間」を設けている。期間中は、「にこげんきカード」に、起きた時刻や寝た時刻、朝ご飯を食べたかなどを記入し、担任や保護者が点検する活動を行っている。また、昨年度よりメディアとの付き合い方を考えさせるために、メディアを使わない時間を取り入れることができたか、寝る前に使わなかったかなどを記入する「にこげんきカード目（メ）ディア」の取組も追加している。

この取組について、なかなか成果が上がらないことが昨年度までの課題となっていた。そこで、家庭とのかかわりがある取組ということを鑑み、保護者の意識の変化が結果につながっていくのではないかと考えた。

## 3 研究の仮説

P T Aの活動を通して、保護者にも「にこげんき週間」への意識を高める活動を行えば、「にこげんきカード」への取組の成果が上がるのではないかと考えた。

## 4 研究の方法

P T Aの活動の中で、保護者に学校保健委員会や保健集会への参加を呼び掛けて、子どもたちと同じ活動に参加し、「にこげんき週間」に取り組んでもらう。

## 5 研究の実践

### (1) 実行委員会での養護教諭からの説明

5月13日（土）に実施したP T A実行委員会に養護教諭も参加し、児童が家庭でメディアを使用する際の実態や課題などを直接保護者から話を聞いた。この児童の実態を踏まえ「にこげんき週間」の意義や取り組み方の説明をし、学校保健委員会への参加を呼び掛けた。



【実行委員会での説明する養護教諭】

### (2) 学校保健委員会への参加

7月6日（木）に豊川市保健センターの保健師を講師に招き、学校保健委員会を開催し

た。保健師から「視力について考えよう」と題して、講話をいただいた。15名の保護者の参加があり、保護者からメディア使用に関して親としての思いや願いを子どもに伝える場面もあった。

#### 保護者の感想より

- ・メディアを利用する時間は2時間以内、外で過ごす時間は2時間以上を勧める理由がわかったので、子どもに納得して取り組めるように声掛けをしていきたいと思いました。
- ・我が家のこれまでのにこげんき週間は、ただ決められたことを守るように言っていただけでした。今後はきちんとその理由を伝えて、納得して取り組めるように声掛けをしたいと思っています。
- ・メディアの時間を考えて行動できるように、子どもたちと話し合いたいと思いました。
- ・子どもが、自分でメディア利用についてブレーキをかけられるようになってほしいです。

### (3) 保健集会への参加

10月6日(金)に眼科医療機器メーカーのニデック(のぞくと気球が見える機器などを製造販売)社員による目のお話を聞いた。近視になると目の形が変わる(眼軸が伸びる)ことに子どもたちは驚いていた。話の前に保健委員より「にこげんきカード」の結果発表があり、話の後には、「にこげんきカード目(メディア)」の記入を行った。この日は15名の保護者の参加があった。



【保健集会で講演するニデック社員】

#### 保護者の感想より

- ・休日のメディア使用に関して、子どもも親も使いすぎていると感じたので、これからは親子で気を付けていきたいです。
- ・私は目が悪くとも不便なので、子どもには同じ思いをさせたくないです。メディアを30分利用したら目を休める時間をとりたいです。
- ・家で子どもに言って聞かせていますが、なかなかわかってくれないので、専門家からのお話で理解が深まってくれるといいなと思いました。今日のお話を家で子どもと話題にしようと思います。

## 6 研究の考察

9月の結果と、保健集会後に行ったチェックでは、「メディアを使わない時間を取り入れることができたか」の項目で、チェック期間中(5日間)、毎日できた児童の割合が44%から52%に増加した。子どもや保護者のコメントから、子どもたちは積極的に外遊びを取り入れたり、家族でボードゲームをしたり、家の手伝いをしたり、メディアを使わずに過ごすことができていたことが分かった。

保護者のコメントから、メディアの長時間利用にならないよう声掛けをしたり、子どもと一緒にメディア使用を控えたりするなど、家族で協力して取り組んでいる様子が見えてきた。

## 7 成果と今後の課題

P T Aを通して意識的に保護者に呼びかけたことで、なかなか成果が上がらなかった取組によい兆しが見られるようになった。学校と同じスタンスで保護者にも指導をしてもらうことが、家庭の教育力の向上につながったのではないだろうか。これからは学校と家庭の教育力の両輪で子どもたちをよりよく成長させていきたい。